

畑にナタネの種をまく恵庭市・島松小の児童たち（アレフ提供）



市内の畑十五坪でナタネの種をまいた。  
アレフ恵庭エコプロジェクトチームの嶋貴久雄室長は「自治体の関心も高い。札幌



「来夏には私の肩まで伸びる」とナタネの畑を見渡すアレフ・恵庭プロジェクトの嶋貴室長

## 札幌市、来月から回収事業

**BDF** 植物油を精製して作る軽油の代替燃料。市販のディーゼル車にそのまま使用できる。排ガスに有害な硫黄酸化物を含まず、成長過程で二酸化炭素を吸収する植物が原料のため、地球温暖化防止協定上は二酸化炭素の排出はゼロとみなされる。軽油と混ぜず100%使用すれば、軽油引取税は課税対象外となるため、軽油より販売価格は1割当たり20円前後安い。製造量は軽油と比べてきわめて少なく、ガソリンスタンドでは販売せず、製造業者が直接販売している。

市では、十月から市と事業者、民間でつくる「ごみ減量実践活動ネットワーク」が食品スーパーやファミリーレストランなどを回収拠点にして、家庭から出る廃食用油を集める事業を始める。回収した廃食用油は製造業者が引き取り、市のごみ収集車の燃料とするほか、市民にも販売する。

石狩支庁ではごみ減量や環境にやさしいエネルギーの普及をめざす産官学の組織「石狩バイオマスネットワーク研究会」の中に今年七月、BDFグループを立ち上げた。同グループには市町村の担当者やBDFの製造業者など九団体・社が参加している。

研究会の事務局を務める石狩支庁環境生活課は、「石狩管内の人口は約二百二十万人。今後は市町村と業者が連携しながら、家庭から出る食用油の回収やごみ収集車などへのBDF利用を進めていきたい」と今後の活動方針を話す。

寒冷地・北海道ならではの課題もある。BDFの製造業者や研究者などをつくる「北海道バイオディーゼル研究会」の大嶋武副代表幹事は「100%で使用した場合、軽油と比べて、厳寒期には粘性が高く、着火性が劣るといふハンディがある。道内では厳寒期に軽油と混ぜて使った時に減税措置が受けられるような仕組みが必要」と、国や自治体の支援策を求めている。